

事業報告



事業名	平成28年度香川県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会総会・研修会
日時	2016 年 6 月 24 日 18:30 ~ 21:00
会場	香川大学教育学部
主催	香川県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会
参加人数	28名/12クラブ

内容詳細

○総会(18:30~19:00)

・H27年度事業・決算報告、H28年度事業計画・予算について承認。

・NPO法人遍路とおもてなしのネットワーク事務局長が出席。H28年2月の「一日一斉おもてなし遍路」およびH28年6月18日(土)に開催された「NPO法人遍路とおもてなしのネットワークH28年度シンポジウム」への参加報告がありました。(シンポジウムでは、会長、副会長、一ノ谷スポーツクラブ、とらまるクラブONLY・ONEが事例発表を行いました)

○研修会:ワークショップ「震災! 体育館が避難所に! さてどうする?」(19:00~21:00)

講師:磯打千賀子氏(香川大学地域強靱化研究センター特命准教授)、高橋真里氏(同センター技術補佐員)

・阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震における避難所運営の事例発表、避難所の法的位置づけなどを説明した後、1グループ5~6名に分かれ、HUG(避難所運営ゲーム)を体験しました。

→HUGは、静岡県が開発したもの。避難者の年齢や性別、国籍、各家庭事情、障害の有無等が書かれたカードを、避難所の体育館、教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。

<https://www.pref.shizuoka.jp/bousai/seibu/hug/01hug-nani/01hug-nani.html>



グループの1名がカードを読み上げ、読み上げられた避難者カードを他メンバーが平面図に並べていきます。カードは1世帯分をまとめて読み上げます。中には「受付をつくる」「トイレが汚れているので掃除する」といったイベントカードが入っており、それも同時進行で進める事になります。

→研修では、「23:00に高知県沖で大地震が発生した」という前提で、ワークを実施しました。

・グループワーク後、講師からは

*メディアの情報⇄人々の認識になり、定説化する。なのでその対応やメディアへの発言には十分に気を付けなければならない。

*避難所として一度避難者を受け入れたからには最後の1人が出るまで引き受け続けなければならない。重要なのは、閉鎖するときである。

*顔が見えるコミュニティにすると、自然と避難所内に自治が発生する(自治会の結びつきが弱い地域は、行政への依存度が高い)

といった話を聞くことができました。

写真

